

第109回フォト句優秀作品（20年10月12日）

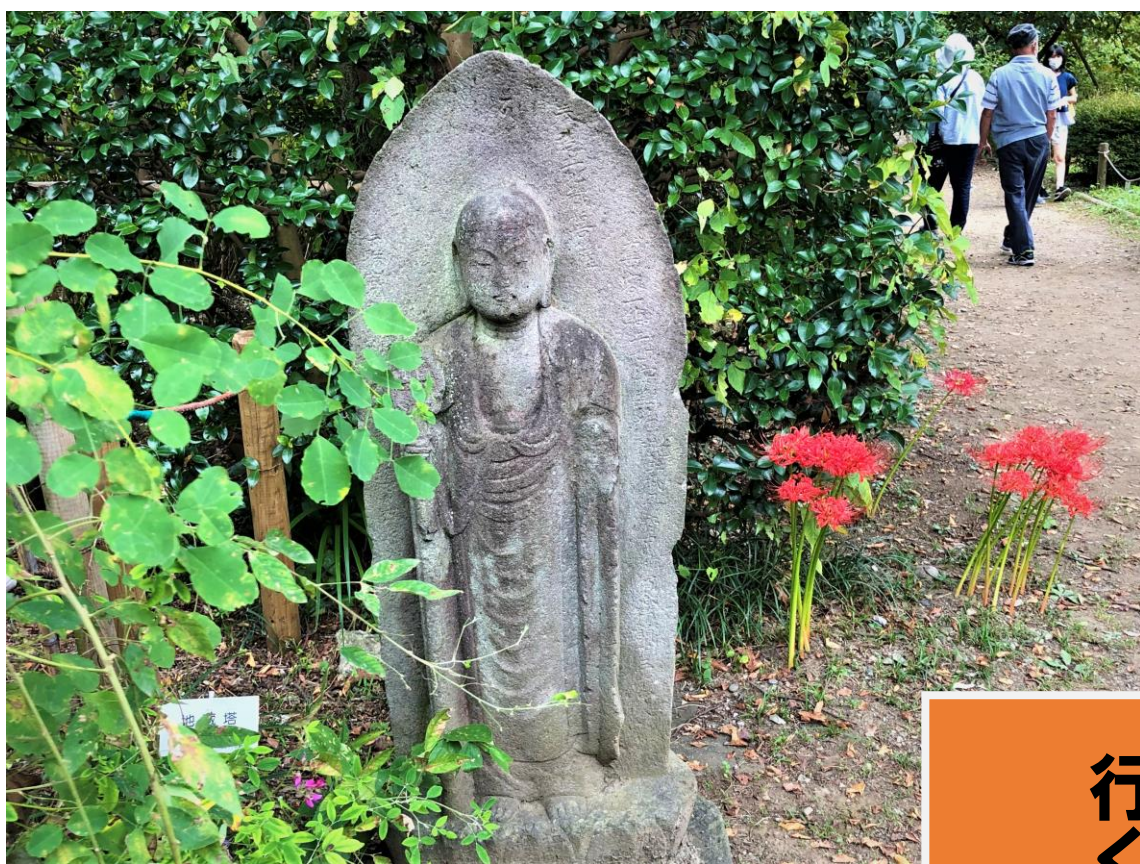


夕立や
七色の橋
かけて去る

昌康



沖漬けにならずにすんだ蛸烏賊(アキヤ)



行く秋や地蔵菩薩の散歩道

(晃二)



見上げればビルの谷間に

秋の空(進一郎)



コロナ禍や春夏秋冬
巢に籠り(浩平)

寸評：

1) 夕立や七色の橋かけて去る

松田 昌康

滅多にお目にかからない二重の虹を上手くとらえたシャッターチャンス
の勝利。二重の虹を残して夕立が去って行ったという句も簡潔で良い。

2) 沖漬けにならずに済んだホタルイカ 中村 晃也

コロナでの自粛期間に出かけた水族館での写真。もう少し

気の利いた句が欲しかった。

3) 行く秋や地蔵菩薩の散歩道 安藤 晃二

曼珠沙華をはべらしたお地蔵様。遠景に散歩をしている人の後姿を配したアングルといい、句の調子といい作品としては良く纏まっている。が、絵も句もまとも過ぎて他の作品と比べるといま一つパンチがないところが惜しい。

4) 見上げればビルの谷間に秋の空 長尾 進一郎

ビルの底から上を見たら秋の空が見えたという着想が意外性があって面白い。雲の形がユニークで秋の空よりも秋の雲のほうが良かったかもしれない。

5) コロナ禍や春夏秋冬巢に籠り 大越 浩平

画材はメキシコ製のコロナという商標の高級ビールである。残念ながら時代の波に翻弄されメーカーは倒産してしまった。風格のあるバックに浮き上がるボトルの図に、コロナ禍のために一年中巢籠りするという、**時宜に合った句**を配して堂々たる作品に仕上がった。

御題写真



寸評：矢澤さんの出題で秋桜（コスモス）のきれいな写真。

1) コスモスや絵手紙に描き母想う 松田 昌康

絵手紙というロマンチックな措辞がコスモスの風情に良くマッチし、素敵な句になった。

2) 廃駅の花壇の跡や秋桜 大月 和彦

旅行好きな作者がローカル線の廃駅で見かけた風景そのものを句にした。花壇の跡という措辞が寂しげに咲いている花の風情に良くマッチしている。

3) 風そよぎ揺れる笑顔の秋さくら 清水 勝

コスモスの花は見る人の心情によっては淋しげにも見えるし、
明るい可憐な花にも見える。風に揺れている花々を笑顔と捉え
た前向きの姿勢を多としたい。

4) 秋風に揺れる花々万華鏡 松田 昌康

今回、作者の松田さんは2作とも入賞である。種々の色彩の
花々を万華鏡と捉えたセンスは捨てがたいものがある。